



2010年 9月 08日(水曜日) 14:12



ハイテクつくばの土壌改良剤

つくばエクスプレス(TX)、つくば駅の構内にあるアンテナショップ「つくばの良い品」では、米やジュースなどと並んで意外な商品が人気だという。商品名は『ハイテクつくばの土壌改良剤』(1・5畝)。もみがらを発酵させた天然の土壌改良剤だ。もみがらは通常、発酵・分解するまで2~3年近くかかるが、つくばアイノは茨城大学と共同で約20日間で発酵・分解する技術を確認。農薬や化学肥料を使わない土壌改良剤として、日曜菜園などに取り組むユーザーを中心に人気があるという。「農薬のない江戸時代、人々は発酵させたもみがらを堆肥として使っていました。もみがらに含まれる植物繊維は糖분을分解して、微生物が繁殖しやすい土壌を作ってくれる。自然に合った農業を取り戻すには絶好の土壌改良剤になると考えました」と話すのは社長の藤田哲史さん。発酵もみがらの販売を通じて藤田社長が目指すのは有機農業の普及。91年に大手半導体メーカーを早期退職後、さまざまな職を経験した末に農業にたどり着いた。「野菜の通信販売を始めようとしていたのですが、意外に安全・安心な野菜を作っている農家が少ない。これは土作りからはじめる必要があるのではと考えた」そうだ。

発売当初は農家を相手に売り込みをしていたが「実績がない商品なのでなかなか採用されなかった」という。そこで藤田社長は方針転換。一般向けに「つくばの良い品」で売り出してみたところ、これがウケた。安全・安心な農業に関心のあるユーザーが使ってくれるようになったのだ。今年はみずから地元の農家と連携して発酵もみがらを使った米づくりに挑戦。「発酵もみがらで蘇った元気な土で美味しい米ができることを証明したい」と意気込んでいる。

(株)つくばアイノ

FAX:029-858-7255